



沖縄2法「自民がけん引」

谷垣総裁、県議選への意義強調

自民党の谷垣禎一総裁が8日米原し、仲井真弘多知事や自民党県連、市町村の代表らと意見交換した。谷垣総裁はその後の記者会見で、6月の県議選について

「安定した仲井真県政を進めていたため、安定した与党をつくる必要がある」と述べ、与党多数を実現する必要性を強調した。谷垣氏は、自民党の修正案を取り入れて沖縄関係2法が年度内に成立した意義を強調。「自民党が引っ張って使い勝手のいいものができた。これをどう生かすかが県議選のテーマになる」との認識を示した。

仲井真知事は「良い法律をつくっていただき、心から感謝する」と謝意を示した。その上で、那覇空港の第2滑走路の早期整備を要請した。

谷垣氏と自民党県連との意見交換では、米軍普天間飛行場の移設問題については、県連側が県外移設を掲げて県議選に臨むことを報告した。

谷垣氏は県軍用地等地主会連合会の喜屋武茂夫会長ら幹部とも意見交換した。一連の日程には自民党沖縄振興に関する特別委員会の川口順子委員長、島尻安伊子参院議員も同行した。

自民党の谷垣禎一総裁(左)と会談する仲井真弘多知事(右) 8日午後、県庁

知事は「(那覇空港は)沖繩観光の心臓みたいなものだが、自衛隊の緊急発進や中国からの国際線も増えており、ぎりぎりになっていく」と指摘。来年度の新規事業化と工期短縮による早期の使用開始を実現するよう求めた。

谷垣氏は県軍用地等地主会連合会の喜屋武茂夫会長ら幹部とも意見交換した。

一連の日程には自民党沖縄振興に関する特別委員会の川口順子委員長、島尻安伊子参院議員も同行した。